

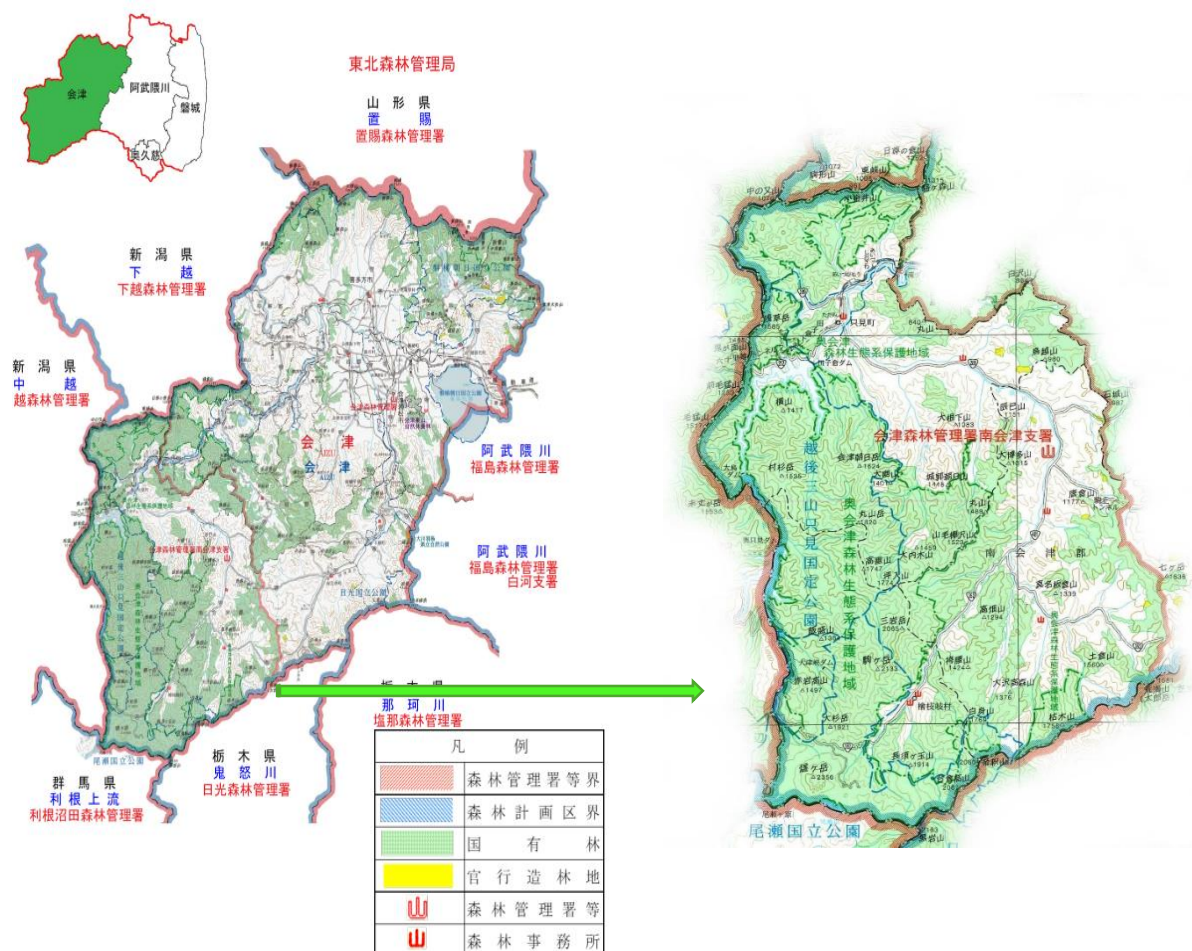
森林管理署長等が語る！

会津森林管理署南会津支署
支署長 金子友次

はじめに

当支署は、福島県南会津郡南会津町（旧田島町を除く旧南郷村、旧伊南村、旧舘岩村）只見町、
檜枝岐村に所在する国有林約 11 万ヘクタールを管轄しております。

関東森林管理局管内において、各森林管理署・支署等の中でも最大の管理面積を誇っております。管内の国有林の殆どが、尾瀬国立公園や越後三山只見国定公園、奥会津森林生態系保護地域に指定されており、奥深い山々からもたらされる水系は、福島県のみならず新潟県の水がめにもなっています。



南会津支署 管内図

これまで「森林管理署長等が語る」では、歴代支署長が支署の業務や取り組みなどを紹介してきたので、今回私は、当支署管内の所在町村の様々な魅力ある見どころ名産品などを中心に触れ、最後に支署の力を入れている事柄について、知っていただく流れでご紹介したいと思います。

1 管内南から北へ町村別、登山の見どころ紹介

桧枝岐村からは管轄内でも有名な場所として、皆さんも一度は耳にしたことのあるこのフレーズ「♪夏が来れば思い出す～はるかな尾瀬、遠い空」で認識される国立公園「尾瀬」です。そこは、雪解けを待ち詫びたように湿原に顔を出す水芭蕉を皮切りに「ワタスゲ、コバイケイソウ、ニッコウキスゲ」などなど最後の草紅葉まで、次々とハイカーの目を楽しませてくれる植生の移り変わり、四季折々に豊かな自然織成す景色を見せてくれ、さらには、尾瀬沼から奥にそびえ立つ東北一の標高を誇る燧ヶ岳とのコントラストは、どの季節においても心癒されます。



<尾瀬沼より燧ヶ岳>



<大江湿原から尾瀬沼>



<当支署設置看板>

また、御池駐車場から沼山峠に向かうシャトルバスでは途中、眼下一面に広がるブナ平国有用林の原生林の展望をハイカー等に見てもらう為に、バスは一旦停車し車窓からブナ原生林を遠望するサービス運行が行われております。その際、ブナの樹冠が丸みを帯びて連なる姿が野菜のブロッコリーに似ていることから、ブロッコリーの森と紹介することで、記憶に残るような車内アナウンスがされています。このスポットはどの季節でも見ごたえ十分です。



<ブナ平自然観察教育林>



<秋のブナ平自然観察教育遠望>

もう一つの登山者を引き付けてやまないのが、日本の百名山の一つでもあり、ふくしま 30 座として数えられる**会津駒ヶ岳**でしょう。健脚の登山者は日帰りで走破してしまいましたが、やはり山は夕暮れと早朝に見るそれぞれの景色が最高だと思います。夕暮れは、夕日に燃ゆる赤色と暮れ行く夜空の紺色。変わりゆく二色が織りなすコントラストは感動ですし、明かりもない山頂の漆黒の夜に輝く星空も最高です。また、朝は朝で、山並みが朝霧を纏う姿は、山小屋に泊まってみる醍醐味だと思います。



＜初夏の会津駒ケ岳＞

南会津町からは日本二百名山であり、ふくしま 30 座の一つ田代山の紹介です。尾瀬に隣接する山で、こちらも国立公園に指定されるエリアです。田代山の山頂には湿原が存在することで知られており、その形状は非常に珍しく、プリンに似ていると例えられ、こちらも尾瀬に引けを取らず、山上の楽園とも呼ばれるほどで、シーズンには多くの高山植物の花々で埋まり、様々な植生がハイカーを待ち受け、毎年山開きを待ちわびた多くの登山者が県内外から訪れ、秋になるまで季節ごとの草花を楽しむことができます。



＜山開きに田代湿原より会津駒ケ岳を望む＞



＜南会津町観光協会 HP より＞

只見町には、そびえ立つ標高 828m の鋭峰蒲生岳。低山ながら険しく尖った姿から「会津のマッターホルン」と呼ばれています。急峻な山ならではの岩場や鎖場のエキサイティングな登頂を越え、岩場を登れば 360 度の広がる大パノラマ。眼下には蛇行する只見川が見え、更に山の裏側にはブナの森が広がり、ブナ林の中に入れば木漏れ日を感じながらの森林浴も楽しめるなど、その過酷さと素晴らしい空間に魅せられ、リピートするハイカーも多く存在します。



＜只見線と蒲生岳＞



＜登山風景：福島県観光物産交流協会情報サイト HP より＞

2 管内名産品

初夏には庁舎周辺に多くのトマト用ハウスが存在し、南郷トマトは一度食べたらその味に目を

見開きます。南会津は標高が高い地域で、昼夜の寒暖差が大きい気候と豪雪地帯のミネラル豊富な水が、「日本一の味と品質」を生み出していると言われています。これまでも某有名ハンバーガーチェーンが南郷トマトを使用した商品を出したほど

他にも南会津町には地元に酒蔵が4軒あり、いずれも全国日本新酒鑑評会で連続金賞の実績を誇り、多くの日本酒好きを唸らせます。

また、平成25年6月21日に全国5番の早さで施行された「南会津町乾杯条例」があります。

宴会の乾杯の際に地元酒を使用することで、地元酒の普及や地元産品の愛用を促すことを目的としています。

町内では、乾杯用の日本酒をサービスする飲食店もあり、町全体で”乾杯”を盛り上げています。



<管内の4蔵元の日本酒>



<南郷トマト>

3 管内歴史的文化芸能

桧枝岐歌舞伎

鎮守神社の境内にある「檜枝岐の舞台」は、国の重要有形民俗文化財に指定されており、その歴史は古く、270年以上昔に村人がお伊勢参りの際に見た歌舞伎を、村に伝えたのが始まりと言われています。この「檜枝岐（ひのえまた）歌舞伎」は代々親から子へ子から孫へと、その技と精神を連綿と継承し、春と秋の祭りの中で、神に捧げる奉納歌舞伎として、神と村人の両方を楽しませてきた歴史があると言われ、出演者から裏方に至るまで、全てが村人によってこなされている「農村歌舞伎」ですが、その舞台美術や演技の見事さは、素人演技とは思えないほどで、国も認めた伝統芸能として、広く知られています。



<桧枝岐歌舞伎；桧枝岐村観光協会 HP より>

4 管内の歴史的な街道

沼田街道

会津沼田街道は、群馬県側からは会津街道、福島県側からは沼田街道と呼ばれ、江戸時代初期に沼田藩主であった真田氏が、沼田城から会津若松に行くために街道を整備したものと伝えられています。その街道は人々が行き来するだけでなく物流にも役立っており、会津からは米や酒が、沼田からは塩や油などが運ばれて当時の物流の要衝であったことがうかがえ、明治初期までこうした取引があったとされます。現在の沼田街道は国道 401 号線となっていますが、尾瀬の自然環境保護のため、福島県と群馬県の県境が自動車道として整備されておらず、日本で唯一両県は接していても車の往来が出来ず、「徒道」でしか繋がっていないことが有名です。



赤道が沼田街道：絵図は檜枝岐村教育委員会所蔵
檜枝岐絵図（1804 年）より



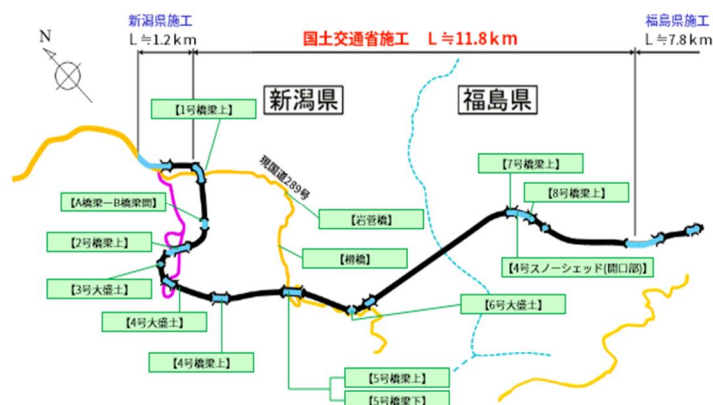
現代の沼田街道図面：尾瀬桧枝岐温泉観光協会 HP より

八十里越

この街道は、新潟県三条市と只見町を結ぶ街道で、古くは石器時代まで遡り利用されていたと伝わっております。八十里越の名の由来は、実際の距離は八里（約 31 km）でありながら、険しさゆえに一里が十里にも感じられるほど余りに急峻かつ長大な山道であることなど、諸説あります。

この街道も古くから交通の要衝で、新潟県からは、海の恵みである塩や魚が、福島県からは織物や林産物が運ばれ交易され、明治時代まで生活には欠かせない重要な街道でした。近年、鉄道や道路の開通により、次第に利用されなくなり昭和 45 年には、国道 289 号に指定されながらも約 20 km 不通状態となっていました。ようやく令和 8 年秋から令和 9 年夏を目途で、福島、新潟両県の長年の悲願であったこの区間が多くのトンネルで開通することとなっています。

これにより、冬季間も問題なく福島県只見町と新潟県三条市が所要時間およそ 79 分で結ばれ、課題であった只見町の地域救急医療の改善や観光交流といった様々な発展に寄与されることが期待されています。



＜国交省北陸地方整備局提供資料より＞

5 最後に当支署の取組の一部を紹介

2点ほど支署の取組を紹介します。

まず、自然の豊かさを活かし当支署で力を入れているのが、学校との連携による森林・林業に関する教育に貢献する取り組みです。千葉県柏中学校とは、平成22年から分収造林契約を結び、そこから毎年同校の中学2年生を対象に保育作業を体験することと併せて、森林の大切さや重要性を学んでもらっています。その他にも、町の林業祭、文化祭や小学校からの依頼による出前講座など、管内の子供たちに身近な自然の働きや重要性を学んでもらい、一人でも多くの子供たちが大人になったとき、森林や林業の応援団となってもらえることを期待し支署を挙げて森林・林業教育に取り組んでいます。



＜小学校への出前森林教室＞



＜町林業祭での当支署木工作ブース＞



＜小学生の力作＞

もう1点が、尾瀬国立公園内にある、先ほど管内の名所でも触れた田代湿原直下の西根川上流域における大規模崩落による災害復旧です。大雨の際に崩壊地から流出する恐れのある土砂から、保全対象である下流域住民の生活の安心を確保するべく、流出する土砂の抑制、防止の治山対策工事を進めております。具体的には、昭和45年の崩落が始まり、その後、平成30年の豪雨災害時に大規模に土砂が流失し、下流域の河川まで到達した土砂により河川敷近くの露天温泉が埋まる被害が出るなどしたことから、国、県、町による対策協議会を設置し、毎年、各機関による事業計画等情報・意見交換を行うとともに、協議会として地元住民、関係者等へ事業の進捗や

取り組み等情報発信を行い、「安心してもらえる見える取り組み」に心掛けており、これから先、完全復旧までは、長い年月がかかると思いますが、国有林がしっかり山地災害の復旧に取り組んでいることが、地元住民の皆様等に評価して頂けるよう今後も継続して取り組んで参ります。



< 西根川上流（田代山直下の崩落箇所） >



< 航空実播工 >



< 西根川上流谷止工 >

むすび

当方の勝手なチョイスで紹介しましたが、まだまだ紹介したいものは山ほど。またの機会に照会したいと思います。

この会津の地は魅力がいっぱいで、人、物など接する全てが感動です。

そこには、「会津の三泣き」との言い伝えがあるほど。

その由来は、一度目の涙「初めて会津に来た人は、よそ者に対する厳しさに泣き」、二度目の涙は、「会津の人の温かな心と人情に触れて泣き」、三度目の涙は「会津の地を去る時に離れることのつらさに泣く」というものです。私も会津（南会津）に赴任し二度目の涙を感じています。

おわりに、この南会津の地に林野庁の出先機関として、私どもの組織が所在する意義を絶えず考え、後世に、この豊かな自然と多様な動植物が存在する貴重な国有林を管理経営し繋いでいく使命と責任の重さを署員一同再認識し、豊かな森づくりに尽力することを肝に銘じる次第です。



南会津支署庁舎